

**論文紹介 銭谷真人「『横浜毎日新聞』における仮名字体および仮名文字遣い-明治期の新聞における字体の統一について-」『日本語の研究』10(4): 48-66. (2014)**

著者	銭谷 真人
雑誌名	国語研プロジェクトレビュー
巻	6
号	2
ページ	67-68
発行年	2015-10
URL	<a href="http://doi.org/10.15084/00000795">http://doi.org/10.15084/00000795</a>

銭谷真人

『『横浜毎日新聞』における仮名字体および仮名文字遣い  
—明治期の新聞における字体の統一について—』

『日本語の研究』10(4): 48-66. (2014)

## 銭谷 真人

現行の平仮名字体は明治33年の小学校令施行規則において示された字体に基づいており、それ以前は変体仮名（現行の平仮名とは字母を異にする、または字母は同じでも字形の著しく異なる字体）も用いられていた。ただ明治33年を境に、変体仮名が用いられなくなったという訳ではなく、近世から既に字体は収斂していく傾向が見られるということが指摘されていた（浜田1979）。明治期においても、文学作品については、時代が下るにつれて字体は整理されており、明治30年代前半には、ほとんど変体仮名の使用が見られない作品も存在していた（銭谷2010）。本稿は、このような仮名字体の収斂の傾向が、明治期の出版物全般に見られる現象であったことを明らかにする研究の一環として、明治になって本格的に発行され、広く人々に読まれた「新聞」について調査を行ったものである。また明治期は、整版印刷から近代的な活版印刷への過渡期でもあり、使用できる字体が制約される活版印刷の導入が、仮名字体にどのような影響を及ぼしたかについても考察を加えた。

『横浜毎日新聞』は、明治3年に横浜で創刊され、題名を変えながらも昭和まで発行され続けた。その間に本文に使用する活字にも変更が見られる。一つの新聞において使用される字体がどのように変遷し、そのことに活字が関わっているかどうかを調査することに、『横浜毎日新聞』は適しているということが、本稿で取り上げた理由である。調査にあたっては、使用される活字の変わり目と、題名の変更を基準として時期区分を行った。

使用される活字を基準に調査を行った結果、やはり字体は統一される傾向にあったことが判明した。ただし単純に時代が下るにつれて収斂していくのではなく、場合によっては字体数が増加することもあった。そしてそれには使用される活字が大きく関わっていたのである。初期の活字セットは字体の種類が少なく、それにより使用できる字体に制限があったが、やがて多様な字体を含む活字セットが登場し、大新聞としての権威づけもあってか、一時期は非常に多彩な変体仮名が使用される。そこから一転して、突然字体が削減されるが、これは平易な表記による読者層の拡大のためと考えられる。以降は多少増加する場合もあるが、全体としては統一へと向かうのである。

最終的に字体が統一された背景には、活版印刷における複数字体使用の非合理性があると考えられる。そのような中、最後まで用い続けられた変体仮名は、仮名文字遣い（字体の使い分け）に関係するものであった。版本においては判読の補助として機能していた仮名文字遣いであるが、活字においては意味をなさない。それでも変体仮名が用いられたのは、まだ

近世の慣習から完全に脱却できていなかったためと考えられるのである。

例として〈ニ〉の仮名の場合について紹介する。表1は『横浜毎日新聞』2689号と2690号の〈ニ〉の各字体の使用状況である。2689号と2690号の間で印刷所の変更があり、使用される字体にも変化が見られたため、本稿ではそれぞれの号における各字体の使用状況について調査を行った。その結果、特に顕著に違いが表れたのが〈ニ〉の仮名だったのである。2689号においては「尔」を字母とする「よ」「ふ」,「丹」を字母とする「み」の三つの字体が用いられ、2690号においては現行の字体「に」のみ用いられていた。〈ニ〉の仮名については、助詞および副詞の使用例しか見られなかったが、近世の版本においてはそれらに「尔」を字母とする字体を用いるという傾向があった。2689号においては近世までの慣習に従い、「尔」を字母とする字体を用いているが、2690号においては「尔」を字母とする字体は見られない。2689号のように複数字体の併用もなく、現行の字体「に」に統一されているのである。ただ2690号以降の号で、「に」と「よ」が併用されることもあり、完全に「に」に統一されるのは、まだ先のこととなる。だが印刷所の変更によって方針が変わり、それが字体の完全統一へと近付いていく契機となったのは確かなのである。

表1 『横浜毎日新聞』2689号, 2690号における〈ニ〉の各字体の使用状況

〈ニ〉	2689号						2690号					
	文節頭	文節中末	準語頭	助詞	副詞	計	文節頭	文節中末	準語頭	助詞	副詞	計
に	0	0	0	0	0	0	0	0	0	133	21	153
よ	0	0	0	47	4	51	0	0	0	0	0	0
ふ	0	0	0	4	1	5	0	0	0	0	0	0
み	0	0	0	6	0	6	0	0	0	0	0	0

●参考文献●

浜田啓介 (1979) 「板行の仮名字体—その収斂的傾向について—」『國語學』118: 1-10.  
 銭谷真人 (2010) 「明治中期の小説における仮名字体および仮名文字遣い—活版印刷における字体の統一について—」『早稲田日本語研究』19: 13-24.

銭谷 真人 (ぜにや・まさと)

国立国語研究所理論・構造研究系プロジェクト非常勤研究員。修士(文学)(早稲田大学)。2014年4月より現職。  
 主な著書・論文:「明治中期の小説における仮名字体および仮名文字遣い—活版印刷における字体の統一について—」(『早稲田日本語研究』19, 2010), 「『仮名読新聞』における仮名字体および仮名文字遣い」(『日本語学 研究と資料』33, 2010), 「『言海』における仮名字体および仮名文字遣い」(『日本語学 研究と資料』35, 2012), 「明治期国語辞書における仮名字体および仮名文字遣い」(『国文学研究』173, 2014), 「近代作家の自筆原稿における仮名字体—手書きに残った異体仮名について—」(『早稲田日本語研究』24, 2015)。